

高等学校看護科採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]			採 点 上 の 注 意	配 点
1	1	発赤	炎症により、毛細血管が拡張し、血液流入量の増加と停滞によって充血することで起こる。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なつっていてもよい。	各6×2
		腫脹	炎症により、毛細血管の透過性が亢進し、血液の中の血球や血漿の一部が血管外に漏出する。この結果、滲出物によりその局所の容積が増加することで起こる。		
①	2	①	胃や大腸など腹腔内の臓器に発生したがんが、臓器の外壁を構成する漿膜を貫き、がん細胞が体腔に種をまかれるように散布され、ダグラス窓の表面に付着して増殖して、転移するもの。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なつっていてもよい。	各7×2
		②	胃に発生した悪性腫瘍の腫瘍細胞が組織のリンパ管に侵入し、リンパの流れにのって遠隔部位である左鎖骨上窩リンパ節へ転移するもの。		
1	(1)	①	三尖弁	右房室弁 もよい。	各4×4
		②	大動脈弁		
		③	肺動脈弁		
		④	僧帽弁	二尖弁、左房室弁 もよい。	
	(2)	心筋に酸素や栄養分を送ること。		内容を正しくとらえていれば、表現は異なつっていてもよい。	2
2	(3)	②	イ		各4×2
		④	エ		
2	(1)	P波	心房が興奮するときに発生する波	内容を正しくとらえていれば、表現は異なつっていてもよい。	各4×2
		Q R S波	心室が興奮するときに発生する波		
	(2)	図1	D		各3×2
		図2	A		

高等学校看護科採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点
1	(1) ウ (2) 低アルブミン血症により、血漿膠質浸透圧が低下すると血管内に水分を保持することができなくなり、水分が組織間隙に移動し、その結果、腹水の貯留が起こるため。		4
		内容を正しくとらえていれば、表現は異なっていてもよい。	6
	3 2 肝細胞がんは、肝動脈からの血流が主体であるため、腫瘍に栄養を送る動脈を塞ぐことで、腫瘍を壊死させるため。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なっていてもよい。	6
3	3 腹部の緊張を和らげ、腹部膨満による呼吸困難を最小限にするため。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なっていてもよい。	6
	1 体が傾いたときに足を出して姿勢を立て直すことが難しくなること。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なっていてもよい。	4
	2 上気道感染の予防のために、口腔内を清潔にすることや、痰の喀出を促すこと。 尿路感染の予防のために、陰部を清潔にすること。	順序は問わない。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なっていてもよい。	各3×2
4	3 機能回復ではなく、廃用症候群の予防と自立した日常生活をできるだけ長く維持すること。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なっていてもよい。	4
	知覚の認知	順序は問わない。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なっていてもよい。	各2×6
	湿潤		
	活動性		
	可動性		
	栄養状態		
5	1 災害直後から支援できる看護の基礎的な知識や心的外傷後ストレス障害などの心のケアについて扱うこと。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なっていてもよい。	10
	2 実際の医療機関や地域での防災避難訓練に参加したり、実際の被災者や災害派遣の経験者の体験談を聞いたりして、医療支援などにおける看護の果たす役割や健康回復についての対策を考える。	問い合わせを正しくとらえていれば、表現は異なるっていてよい。	10
			20

高等学校看護科採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]		採 点 上 の 注 意	配 点
6	1	分娩予定日	2月 25 日	6
		求め方	(月) 5 - 3 = 2 (日) 18 + 7 = 25	
	2	・子宮底の高さ ・子宮底の形 ・胎児部分の種類		各 3 × 2
	3	(ア)	開口	
		(イ)	全開大	
		(ウ)	後産	
		(エ)	2	
	4	直接授乳では、乳頭の吸啜刺激により、下垂体後葉からオキシトシンが分泌され子宮筋を収縮させるため。		6
	1	ウ		4
	2	注射を行う位置としては、肩峰から3横指下の三角筋部位を選ぶ。この位置は、筋肉が厚く、腋窩動脈や上腕動脈などの大血管や正中神経や腋窩神経などの神経の走行が少ないため。		10
	3	100分		4
7	4	学習課題	看護者として与薬の過程において、どのような役割を果たす必要があるのでしょうか。	32
		まとめの記述例	与薬における看護者の役割について、単に医師からの指示を受けて正確に与薬するだけではなく、与薬に使用する薬剤の薬理作用や使用目的を理解して、患者に対し作用や目的を的確に説明したり、誤薬を回避したりする必要がある。また、患者の身体的・精神的な苦痛の緩和に努め、患者が主体的に治療を受けることで、薬物が患者の体に有効に働くように環境を整えることが、重要な役割である。さらに、与薬を実施した後の患者への影響を観察し続け、日常生活が快適に行われるよう食事、排泄、清潔、環境、睡眠などを整えることである。そのためには、看護者としての知識や技術、患者の尊厳を大切にした態度など、身に付けられるように、日々努力をしていく必要があると認識した。	